

令和3年度

税に関する児童生徒の習字・作文集



東濃西部納税貯蓄組合連合会や、多治見税務推進協議会、多治見税務署管内租税教育推進協議会、(一社)多治見法人会、そして多治見税務連絡協議会が協力して令和3年度『税に関する児童生徒の習字・作文集』を発行し、学校や図書館に寄贈、また、市役所や町役場の玄関・ロビーに優秀作品が展示されました。

多治見法人会長賞には、上之郷中学校3年山田渉太さんの作文「税金の無駄」と、北栄小学校6年若尾美桜さんの習字が選ばれました。



北栄小学校 6年 若尾 美桜 さん

一般社団法人多治見法人会長賞

一般社団法人多治見法人会長賞

税金の無駄

新型コロナウイルスの蔓延によりマスクの配布や一人につき十数万円の特別給付金などが行われました。しかし、これに対して税金の無駄だという意見を多く聞きました。この無駄だという意見に関して自分なりに考えてみました。

始めに辞書によると無駄の意味は「役に立たないこと。効果がないこと。」というように書いてあったため、政策が無駄であったということの条件を一、政策に効果がなかった。他に方法があるという意見があったため、二、他にもっとよい方法を選ぶことができた。この二つにします。

まず一つ目の効果があったかどうかについて考えます。まずマスクの配布についてです。これは僕は効果はあったと思います。理由はマスクがなくて困っている、という声配布前にあったからです。もちろん衛生面の問題や必要ない人にも配られるということもありましたがマスクがない人は確実に救われたと思います。また、給付金も同じく開店時間の制限などがあり救われた人が多かったと思います。以上の理由により一は僕は当てはまらないと思います。

次に二の他の選択肢があったのでは？という意見です。僕が考えたのは病院への給付金や配布時に必要な人のみが受け取る形にするなどです。僕は病院への給付金はかなり重要だったと思います。必要な人のみの配布は給付金の時に行われていました。

上之郷中学校 三年 山田 渉太 さん

しかし、混乱をまねいてしまったり、必要でなくとも受け取った人もいると思います。なのでマスクも同様にすべきだったかと考えると僕は同様にする必要はないと思います。この二つの選択肢を他の視点で見てもみず。それは政府がなぜ選択しなかったのかです。僕は前例がなかったことが関係していると考えています。前がない場合、何をすることが正解か分かりません。その中で多くの人がこうするべきとバラバラな意見を出している。その中ですばやく正確な結論を出せるかと言われると僕は出せません。そう考えるとよりよい選択肢があっても政府が選べなかったのも当然だと思います。

僕が二つの条件を考えて出した答えは無駄ではなかったということです。どんな結果にしる人を救えていますし、他の選択が良かったとも限りません。それに今回の選択が良くなかったという前例が次に起こるかもしれない混乱を止めることになるかもしれません。参考までに今回マスクの政策に使われた税金は五百七億円ほどだそうです。この金額に対して救った人数や救うこととなるかもしれない人数を考えて無駄と感ずるかそうではないと感ずるかは人それぞれだと思えます。ですが他の選択であれば救えた人がいるのは事実です。その人達の死まで無駄にしないよう次の社会人になる身として自覚を持って政治について学んでいきます。